



Referee Time

(審判だより43号)

2017.9.6

沖縄勢の活躍！

審判長 儀間 稔

久しぶりの「Referee Time」の発行です。今年も沖縄の気温同様、各種別の暑い夏の全国大会が終わりました。沖縄県勢の小・中・高とも頑張っていました。小・中で全国制覇まで、あと一歩という成績でした。しかし、全国マスターズ大会において M.L.N 沖縄が優勝し、小学生からベテランまでの、沖縄ハンドボール界の層の厚さを証明しております。M.L.N 沖縄の皆さん、おめでとうございます。また、全国中学校総合体育大会沖縄大会の役員の皆様、見事な大会運営でした。お疲れ様でした。

さて、今年度、沖縄県の審判団からも4ペアが全国大会のレフェリーとして参加しています。その中で、既に3ペアが全国大会での呼笛を済ませていますので、参加したレフェリーの感想等を報告します。他レフェリーの皆さんの自己の技術向上に役立てていただけたらと思います。(今号は2名紹介します)

第22回ジャパンオープン・第37回九州ブロック国体に参加して

A級審判員 前上里 亘

平成29年8月4日～7日間のジャパンオープン、同じく8月18日～20日間の九州ブロック国体に審判員で知念昌平先生と両大会に参加しましたので、報告をさせていただきます。

【ジャパンオープン】

レフェリーミーティングでは、今年度県内で4月に儀間審判長が実施した審判講習会(伝達講習会)での同一資料を基に行われました。

内容は、岩上浩一郎氏(北信越ブロック審判長)が「2016年リオオリンピックの総括を受けて」(県内審判講習会同一資料)の資料中から10項目を是非心がけて欲しいと伝達がありました。10項目の内容は昨年度の競技規則変更のものが主なものでした。

【九州ブロック大会】

今大会のレフェリーミーティングでは、福島亮一氏(九州ブロック審判長)が全国中学校沖縄大会加のため、事前に各審判員に資料が送られ、それを基に金子長崎審判長によるミーティングが行われました。内容は、ジャパンオープンと同様に、昨年度の競技規則変更を中心とするものでした。

【両大会に参加して】

この機会を通して皆様に伝えたいのは、毎年度4～5月に儀間稔審判長が実施する、審判講習会の重要性を理解して頂きたいことです。この講習会は日本ハンドボール協会の審判部が強化部を始めとする各部と連携して、今後の目標を定め、全国各ブロック・各都道府県が同じ足並みをそろえるため、今年度の目標・取り組みを示した伝達講習会となっています。そのため、儀間先生の講習会の内容は、全国研修会の内容と同一のものとなっており、各カテゴリーの全国大会、JHLを含めた全ての大会の運営上の基準となっています。

そのため、審判員のみならず各カテゴリーの指導者（審判員も兼ねていると思います）もレフェリングのポイント、注意事項、競技規則に関する熟知等、選手を指導する上で欠くことのできないものとなっています。

今一度、レフェリングの向上のみならず競技力の向上の視点からも、多くの各カテゴリーの指導者の参加を呼びかけます。

平成29年度第46回全国中学生ハンドボール大会を終えて

A級審判員 比嘉 育志

平成29年度第46回全国中学生ハンドボール大会にレフェリーとして参加させて頂きましたので、ご報告させていただきます。昨年の石川県における全国大会から、ペアの新垣裕己先生とおよそ一年間、今大会に向けて、日ごろの課題克服やレフェリーとしてのチーム力強化を行って臨んだ大会でした。全国大会に参加させて頂くのは初めてではありませんが、開会式における各選手の目の輝き、会場の雰囲気や緊張感漂うレフェリー控室の空気といったことは、やはり全国大会にしかない独特の雰囲気であり、それに飲み込まれそうになるのをこらえ、平常心を保つことを常に意識していた大会期間でした。

実際のレフェリングに関してですが、割り当てられた試合が終わるごとに、今大会の副審判長である福島先生および儀間先生をはじめとした先生方や他のレフェリーから講評をいただきました。私たちペアが常に意識していることが、「Players First」です。そのためには、無駄な笛、ゲームの空気を読めていない笛や選手・チームのパフォーマンスを最大限発揮することを阻害する笛をなくすことをA級レフェリーになってから常に意識しています。その点について、今回の大会で改めて重要だと思った項目を以下に挙げます。

- ①ゲームの流れにレフェリーものる。ゲームの空気を感じ取る。
- ②7mTの判定の際に最後の一場面を切り取って判定せずに、それまでの「過程」をしっかり観察する。
- ③ルールブック8の3(罰則を適用する違反行為)の(d)違反行為の影響をしっかり観察する。
- ④イエローカードや二分間退場を与えるのは、最後の場面でコート上に14人のプレーヤーを残し、しっかり戦いきらすため。

今大会を通じて改めて感じた事は、やはり大切なことは「Players First」であり、選手・チームが日ごろの努力を十分に発揮してゲームを終えることだと思いました。その中で、レフェリーとして罰則に至るプレーの過程をしっかり観察して、それを排除していく裏方の存在であるべきだと思いました。

最後になりましたが、今大会を力強い裏方として支えて頂いた先生方、中学生、大学生の皆さま、本当にありがとうございました。おかげさまで、私自身レフェリーとして、大変大きな収穫を得ることができました。県内大会を通じて、この収穫を県内レフェリーと共有していければと思います。重ね重ね感謝申し上げます。